

「アリス・ウォータースさんに学ぶ 食・農・暮らしの持続可能な未来」

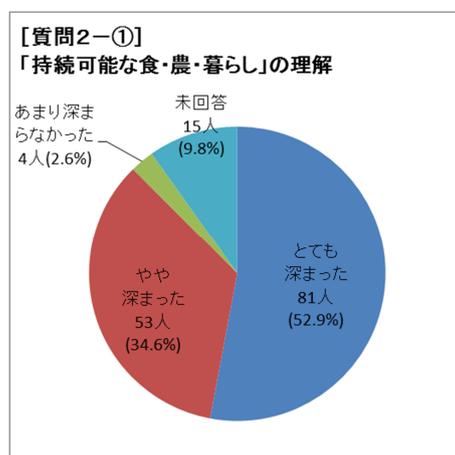
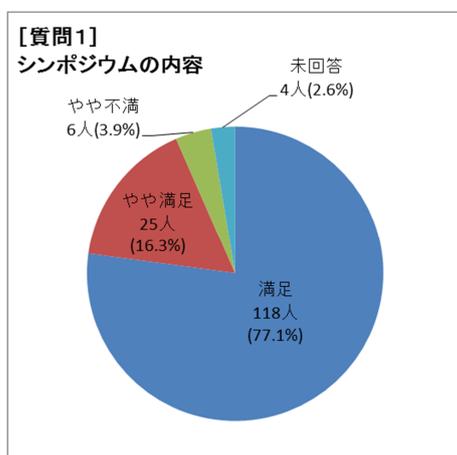
シンポジウムアンケート結果

滋賀県総合政策部企画調整課

- 日 時 平成 30 年 4 月 21 日（土） 13:00～
- 場 所 びわ湖ホール中ホール
- 回 収 数 153 枚（回収率 26.8%：一般来場者数 571 人）
- 質問項目 アンケート参照（7 ページ目）

1 概要

- ・シンポジウムの内容に対する満足度がかなり高い（「満足」「やや満足」合計：93.4%）。
- ・理由として、「アリスさんの考え方を直接聞いた」「アリスさんの情熱を感じた」「小学校の取組紹介が良かった」「食についての知識が深まった」「多くのヒントを得た」など。
- ・「持続可能な食・農・暮らし」についての理解が深まった（「とても深まった」「やや深まった」合計：87.5%）。
- ・「持続可能な食・農・暮らし」を実現するためのアイデアは、「エディブル・スクールヤードを、中学・高校にも広げる」「食育は大人にも必要」「ガーデンティーチャーを養成する」「生産者に適正な対価を支払う」「自分の作ったものを食べる機会を持つ」など。
- ・印象に残った内容・キーワードは、「毎日食べるもので、その人となり分かる」「ファストフードの影響が文化の価値まで来ている」「価値観の上に立つ覚悟」「おいしい革命」「エディブル・エデュケーション」など。
- ・シンポジウムに対する意見は、「自分にできることを少しずつでも行動していきたい」「持続可能な未来を次世代につなげていくことの大切さを考えるきっかけとなった」「アリスさんの、世界を良くする、食で変わるという強い意志に心が震えた」「今後の滋賀の取組に期待したい」「アリスさんの取組は理想ではあるが、そのまま取り入れるのは難しいと思う」「登壇者との質疑をもっと多くして欲しかった」など。



2 各質問項目の主な意見

(1) [質問1] シンポジウムの満足度の理由

- ・アリス・ウォータースさんの口から生の声を聞くことができ、思いが伝わった。
- ・食についての知識が深まった。
- ・ファシリテーター（司会者）も上手で、分かりやすく理解しやすくて良かったです。
- ・お得感だけではダメ。味わう、フレッシュ感（スローフード）がよく分かりました。
- ・今まで知らなかったファストフードとスローフードの関係を理解できた。
- ・アリスさんの現実の取組、思想、パッションを感じさせていただきました。
- ・アリスさんやパネリストの方々、市長、知事のディスカッションや、彼らそれぞれの持論によって自分の頭の中にある考え方のアウトラインや言語化ができた。
- ・日米の社会と活動を対比的に紹介していたところ。
- ・滋賀での素晴らしい取組に感動しました。
- ・三小学校の取組内容の紹介が良かった。
- ・まだ知らない言葉やキーワードなど、これからの日本を作っていく1人の若い人間として多くのヒントを得ることができました。
- ・このような活動について市長や知事に知ってもらい、理解を深めてもらうのは大切だと思う。
- ・今の食の考え方を変えようと思う。
- ・身近に感じられたし、自分にもできることがあると思えた。
- ・食育の革命家の話のみならず実践を通じた報告が聞けた。
- ・同時通訳システムでライブ感のある共有の場でした。
- ・食のことに對して考えなければいけないなと感じた。
- ・時間と価値の安売りをしない生活をしていきたいが、理想だけで終わることなく子ども達に（未来に）つなげる橋渡しの取組を広げていく展望が見えた。
- ・改めて自分の暮らし、生き方を見直すきっかけをいただいた。
- ・ただの講演ではなくて知事なども交え滋賀から日本を変えていこうという意志を感じられた。
- ・県が素晴らしいビジョンを持っていることを知り、大変感激しました。
- ・パネルディスカッションに十分な時間を取られていたので十分満足できた。
- ・レストラン、学校、農、アーティスト、Webの方々、色々な方々の多様性、個性を活かしながら、ネットワークをつくり協力して創造していくことの大切さを感じました。
- ・これから生まれてくるお腹の子のためになることがとても多かった。
- ・パネルで未来への可能性が聞けて本当に良かった。
- ・市長や知事が参加し実際の現場に活かせる意見を発することは大切だと思った。
- ・SDGsに基づくシンポジウムであることが素晴らしい。
- ・滋賀の食べ物ブースもあれば完璧でした。
- ・もう少し日米の違いも示して欲しかった。
- ・時間が短くてアリスさんのお話をもっと聞きたかった。
- ・もっと深い話、実践の方法についても聞けたらさらに良かったです。

(2) [質問2-②]「持続可能な食・農・暮らし」を実現するためのアイデア

- ・小さい頃からの教育。自然に触れることだと思います。
- ・生産者への適正な対価を支払うこと。食べ物の作られ方（農業など）を学ぶこと。
- ・取組が小学校で終わりがちだが、もっと上の学校でこそつなげていきたい。
- ・行政主導と市民の意識変化、両方から働きかけていくことが大切と感じました。
- ・毎日の家庭の食卓で、地域で、学校で、都道府県・市・町で始められること。自分が一歩を踏み出せる場所を見つけることから、まずスタートしてみようと思います。
- ・作り手と食べる人の距離がもっと近づくような機会が増えると良いなと思います。
- ・小さなスペースでも（ベランダでも）「農」のある暮らしを試みることはないか。
- ・平屋+畑の小さな農家の暮らしの形を広げていくこと。
- ・日常食をもっとシンプルなものにしていくことを体感し、理解する機会を作っていく。
- ・もっと大手企業、地場企業の協力が必要。そして共に大人の教育が必要。
- ・耕作放棄地や日本の森を一般市民が活用できるようなシステムができればと思います。
- ・エディブル・スクールヤードを小学校だけでなく中学・高校でも広めて欲しい。
- ・朝食を見直すこと。
- ・エディブル・スクールヤード（エデュケーション）を日本的にアレンジすることにより広がりやすいと思います。（お米、大豆を作って味噌、醤油、納豆を作るなど）
- ・市民一人ひとりが考え行動するのも良いとは思いますが、それだと絶対無理だと思う。国が義務付けて実現すべきであると思う。
- ・滋賀の学校の取組はすばらしいです。自分の庭でまずはもう一度始めて、地域に広めていけることを考えていきたいです。
- ・自分達で作ったものを食べる機会があれば、食に対して見解が深まると思います。
- ・日本では学校内の菜園はあるところが多いはず。校内菜園の充実が一番近道と思う。
- ・まず各個人が正しい知識を知ることが大切だと思いました。
- ・まずは自分自身から家族から始める食の改革。私自身、食に携わる仕事を通じて小さな所から発信していきたいと思います。
- ・子どもへの教育は何より大切だが、大人（企業）に対する働きかけもとても意味あるものだと思う。勤め人があまりにも不健康、アンバランスな生き方をしている。
- ・個性、多様性、違いを受入れ、色々な人と関わり認め合いネットワークを持つこと、協力し合うこと、何ができるかを共に考え創造するアイデアを話合う場を持つこと。
- ・給食革命は必須だなと思うことがますます大きくなっていきました。
- ・生きている食物を敬い、大切にいただく。それが尊いことを改めて感じました。
- ・人工的な建物の中に食・農・暮らし（自然）の要素を組み込めば暮らし易い街になる。
- ・ガーデンティーチャーの養成に力を入れる。50~60代の方々の力を活かして進める。
- ・地域の農家さんと学校をつなげるコーディネーターが日本には必要かと思いました。
- ・伝統野菜を使った食育。
- ・人の気持ち、感情を大切に教育をもっとしなければと思う。おいしい、楽しい、ワクワクするというような感情を持ってない、気付けない子どもも多いと思う。
- ・まず自分が食材選びを心掛け、子ども達に伝える。

(3) [質問3]特に印象に残った内容やキーワード

- ・おいしい革命 (delicious revolution)
- ・エディブル・エデュケーション、エディブル・スクールヤード
- ・ファストフード (文化) ⇔ スローフード (文化)
- ・ガーデンティーチャー
- ・スクールサポータードアグリカルチャー
- ・SDGs
- ・価値観の上に立つ
- ・毎日食べるもので人となりが分かる
- ・学校で給食が、学生の誰も全員に提供されることが大切。
- ・農を支える「学校」としてのシステム。学校を利用して社会を支える、変えるという考え方。
- ・ファストフードの影響が文化の価値まで来ていることです。感じていましたが改めて言葉で聞くと驚愕でした。
- ・本当においしい食事をテーブルについて一緒に食べることが変化を生む
- ・社会を変える一番の場所が学校だ
- ・紹介された三小学校の取組がとても素晴らしいと感じました。
- ・食べ物の力はすごいと思いました。
- ・美しい食卓で行うミーティング。日本にはないですね。
- ・ピーターさんの給食のエピソードは心に残りました。
- ・SDGsが新学習指導要領に書かれたということに驚きました。
- ・ファストフードの価値観は、さもそれが素晴らしいと感じさせるし、それが価値が高いと思込ませるが、不誠実であるというキーワードにハッとしました。
- ・給食を20分ではなく、もっと長い時間をかけて楽しむ。育てる人、作る人を思い、買う、食べる。
- ・スローフード文化の要素の一つに「美」。キッチンのドアからおいしい革命を。我が家の食卓&台所は美しくないわ・・・と省みました。
- ・目の前にいる子ども達そのものが未来だ
- ・SDGsは子どもにとっては自分たちの未来のための勉強ということ。学校を経済や社会の仕組みに取り込んでいくことの考え方。

(4) [質問4]その他(感想・意見)

- ・ 日常の生活の中で、早さ、安価、合理性などが優先されがちだが、立ち止まって再考する機会となった。食卓を変えることが正しい未来につながると思った。日本の現状(貧困)の中で、全ての人が「美しい食べ物」を食べられる環境を作ることが大切だ。
- ・ 美しさの中に生きることを選ぶこと。それだけで自分を取り巻くことが変わるのかもしれないと、アリスさんの佇まいを見て感じました。
- ・ 私は都内の中学校に勤めています。食育を進めるのに壁を感じています。でも少しずつ行動していこうと思いました。「案ずるより産むが易し」と思いました。
- ・ 食品の規定を見直すべき。例：添加物問題(まやかしの無添加)。食品表示の見方の指導の必要性
- ・ アリスさんの思いがアメリカの全ての州、そして世界に広がっているという話に感銘を受けた。エディブル・スクールヤードというコンセプト。シンプルだが可能性がぎゅっと詰まっていて人々をやる気にさせてくれるパワフルな言葉だと思います。
- ・ 料理学校の学生なので、これからの自分の料理の考え方、店をやる際などみはエシカル、サステイナブルについて必ず意識したいと思います。
- ・ 持続可能な未来を作るため、そこに導くため、それを求めるため、子ども達や次世代の人たちに残す(繋げていく)この大切さをより深く考えるきっかけになりました。
- ・ 農地活用のために古くからある法律が農業の課題を大きくしている気がするので変えていくには、一人ひとりが大地の課題をしることから始められるのかなと思いました。
- ・ 小学校低学年からの継続的な教育が本当に大切であると分かりました。
- ・ ファストフード文化の価値観という部分、私にもあると感じ、ハッとしました。スローフード文化を目指してゆっくり楽しむという気持ちを忘れないようにと改めて感じた。
- ・ アリスさんの世界を良くする、食で変わるという強い意志に心が震えた。子ども達の未来のために教育の中に変化を加えていくことが何よりも大きな力になると思う。
- ・ 日本には食文化があり歴史もあるので残されたものを大切に次世代へ残していけるよう、これからも心掛けていきたい。
- ・ 子どもや学校に縁遠い人たちも増えており、「持続可能な食・農・暮らし」を知ったり興味を持てるきっかけ、出会いの場(イベントなど)が増えると良いと感じた。
- ・ 栗東市の学校でもエディブル・ガーデンを作りたい。
- ・ 今日の内容を滋賀の人々、子ども達に知ってもらいたい。
- ・ 子ども達の力、学校が social movement revolution の大きな力となることに希望を感じた。The way to make change. やはり一人ひとりの心、何を私たちは大切にしていけるか。お互いに確信して一つになることが大切だと感じた。
- ・ 日本では今日のアリスさんのお話を実践するには、国が教育課程を示すのではなく、各市町が示さなければならない。教育システムそのものを再考する必要あり。
- ・ アリスさんのお話はとても分かりやすく、学び、そしてハッとさせられることがありました。子を持つ母として、子どもの未来。いつも食を考えているつもりでしたが、きつともっと考えられ、生活の中に楽しみを見出せると思いました。

- ・親子で体験できる食・農を学ぶ機会がもっとあれば良いが、共働きの家庭も多く、機会があっても参加できない人も多いのでは。日本の教育現場にゆとりがないので、アリスさんの取組は理想ではあるが、そのまま取り入れるのは難しいと思います。
- ・毎朝、娘を起こして保育園に時間通りに機嫌良く送り届けるまでルーティンで食事を義務的にこなしている現状を変えたいと思った（シリアルとかパンの繰り返しなので）。おいしい革命は我が家の問題ですね。家にいる時間（食・暮らしを創る時間）をもっと増やしたいと思いました。
- ・京都は京都議定書のことなどスケールの大きな話をよく聞くが、滋賀県は目立たないが地に足の着いた堅実なことをしているように思う。
- ・食の奥深さを知る機会となった。食について考え直す機会となった。
- ・教育が全ての将来を左右するということが分かった。文部科学省だけに任せず、各学校独自の教育をする時間がある。学校に地域の人や若手農家、社会活動している人を呼んで話してもらおう。
- ・1つの場所にたくさんの人の事を考えているたくさんの人が集まり、色々の観点を皆で感じたり、見たりすることがすごく大切だと感じました。
- ・今後の滋賀に期待したいと思います。
- ・知事や市長がこのシンポジウムに同席しているという心強さと、滋賀の子ども達への希望を持てました。
- ・滋賀での取組を、もっと県内の他の市町や会社、団体などに浸透させて欲しい。
- ・滋賀はあまり強い印象がなかったのですが本日の話を聞いて興味が湧きました。
- ・他県から来ました。滋賀県の未来を見据えた取組にとっても感銘を受けました。
- ・ぜひ滋賀県が日本のロールモデルとなり、他県に良い刺激を与えてください。
- ・滋賀がボトムアップ、トップダウン、共に素晴らしい取組をしていること。食・農・暮らしの大切さをすでに教えていることに感動しました。都内から来ましたが、初の大津市の素晴らしさ、美しさにも感動しています。
- ・市長さんと知事さんが最後まで参加されていたことを見て、真剣に食・農・暮らしの持続可能な未来に取り組まれているんだと感じました。
- ・滋賀県の食への取組はとても大切なものだと思います。体を作るものは食であり、その体を持った人間が社会を作っていくことを考えれば食が社会を作ることになると思います。この取組を日本全体に広げられればと思います。
- ・会場までの道中、琵琶湖のほつりを歩いてきました。正直、その湖水はあまり美しいとは感じませんでした。人も生物も生きていくのに水は必要不可欠です。「きれいな琵琶湖」を実現するために自然環境に配慮した画期的な取組を期待します。

シンポジウム

「アリス・ウォータースさんに学ぶ 食・農・暮らしの持続可能な未来」

アンケート

本日は、ご来場いただき誠にありがとうございました。

今後、持続可能な滋賀づくりに取り組んでいく参考とさせていただくため、アンケートにご協力をお願いします。

質問 1：シンポジウムの内容はいかがでしたか？

また、その理由もお聞かせください。

満足

やや満足

やや不満

不満

理由： _____

質問 2-①：本日のシンポジウムは、持続可能な開発目標（SDGs）の目標 2・4・12・14・15 の達成につながる「食・農・暮らし」をテーマとしています。本日のシンポジウムで「持続可能な食・農・暮らし」についての理解が深まりましたか？

とても深まった

やや深まった

あまり深まらなかった

深まらなかった

質問 2-②：持続可能な食・農・暮らしを実現するためのアイデアがあれば、お聞かせください。

質問 3：シンポジウムの中で、特に印象に残った内容やキーワードをお聞かせください。

質問 4：その他に何かご感想やご意見があればお聞かせください。

ご回答ありがとうございました。